

テーマ:

リリコプロジェクト

神奈川県
あざみ野第一小学校
鈴木先生



この活動の特徴



「凛々子」活用のポイント①

学校の立地を活かした、自然との触れあいの一環として例年栽培に取り組んでいる

「凛々子」活用のポイント②

栽培活動から調理まで夏休み期間も活用し、半年にわたって活動した

活動のねらい



- 身近な自然から問題を見つけ、意欲的に解決する力を養う
- 児童が主体的に自然環境をみつめ、豊かな感性を育む

活動の概要と流れ

対象学年 : 3年生(100名)

実践期間 : 5月~10月

時期	学習活動
5月	畑の整備と定植 (地域の方の協力をいただいた)
5月	観察記録、雑草抜き
6月	カラス除けのネットを張る 1回目の収穫。食べた感想をレポートにまとめる
8月	2回目の収穫。夏休みの宿題としてトマト料理、レシピ作成
9月	夏休みの宿題のレシピを発表
10月	生長の記録やトマトについて調べた内容をまとめて発表



ここがポイント！取組の工夫と実践の成果

地域の方に手伝っていただき畑の準備

苗が届いてから教員が地域の方と畝作りをしました。地域の方は毎年お手伝いをしてくださいます。整備された畝にクラスごとに児童が苗を定植しました。

生長過程を観察カードに記録し、水やり、草むしりを行いました。7月ごろに真っ赤に熟したトマトを一人ひとつずつ収穫し、家に持ち帰って食べた感想を紙に記入して提出し、みんなで感想を共有しました。

家庭での調理とレシピをみんなに発表

コロナ禍で調理実習はできないものの、夏休みに児童と保護者が来校し、トマトを収穫。家庭に持ち帰ってトマト料理のメニューを考えて作って食べ、レシピにまとめてもらいました。夏休み明けに「ロイロノート」を使って発表カードを作り、テレビモニターに映して発表しました。



トマトについての興味・関心が広がり、各自でチャレンジ

発表会后には、トマトについてもっと知りたいことや、やってみたいことについて各自テーマを決めて実践しました。自分たちの経験を活かしてほしいと考えた児童は、来年の三年生のためにかかしやレシピ本を作りました。また、トマトクイズ、トマトの種類や育て方などを画用紙にまとめたり、トマトの模型作りなどに挑戦しました。



先生から一言！実践を通して

活動を通して、トマトを好きになった児童が多くなりました。栽培だけでなく、調べ学習を通じてトマトの種類が数多くあることや、栄養などについて知ることができ、トマトや野菜について総合的な興味を持つことができました。

さらに、家庭でトマト料理を作ったことにより、保護者と一緒に料理への関心を育みながら、学習を進めることができました。

凜々子賞の受賞後には、「受賞できたのは地域の方の協力があったこそ」という思いを伝えるため、地域の方へ感謝を表す劇を考えたり、お礼の手紙を書いたりなど、さまざまな活動につながっています。



受賞理由

3年生100名全員が定植から収穫まで、生長に応じて調べ学習を行い、カラス対策などを講じて栽培活動を乗り切りました。調理実習ができない中でも、家庭との連携で料理体験につなげ授業展開や記録に残る工夫をしていること、また、デジタルツールを使って発表したり、トマトについての調べ学習に各自がテーマを決めて取り組んだりしたことが素晴らしいですね。